カリキュラム・マネジメントの充実

滝川市立滝川第三小学校　学級数 17　（校長　西　田　篤　人）

Ⅰ　実践の概要

本校の学校教育目標「よく学ぶ子 心の豊かな子 じょうぶな子」の実現に向けて、児童や地域の実態を踏まえた、教科等横断的な視点から、目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列するとともに、教育課程の編成・実施・評価・改善を図る一連のサイクルを計画的、組織的に推進するなど、カリキュラム・マネジメントの充実を図っている。

Ⅱ　実践の内容

１　グランドデザインの作成

本校の教育ビジョンであるグランドデザインの作成に当たっては、学校評価の児童・保護者アンケートの分析から、次年度の教育推進の重点を定めることとした。また、目指す児童像に向けた学校づくりに関する職員アンケートの結果を踏まえ、児童に育成すべき資質・能力を一層明確にし、教育目標の具現化を目指しているほか、グランドデザインには、学年や学級等の教育活動と学校目標とのつながりを示すことで、教育課程全体における位置付けを意識することができるようにしている。

２　全国学力・学習状況調査の分析

これまでの調査結果を踏まえ、研修部と教務部が連携を図り、本校の児童の更に伸ばしたい力や課題となっている領域を明確にし、学力向上に向けた取組を進めている。課題の改善を図るために、ＰＤＣＡサイクルを意識し、計画的にカリキュラムの見直しを行ったことにより、教育活動の質の向上を図るためのビジョンの共有化が進んだ。なお、カリキュラムの見直しについては、教育活動の実践を充実させるために組織している教育課程検討委員会を中心に推進している。

３　教育課程編成の重点に基づく学習指導及び生徒指導の充実

教育課程編成の重点を、①創意と調和のとれた特色ある教育課程の編成、②授業改善を図り、わかる・できる・わかちあう授業を創造する教育課程の編成、③「主体的・対話的で深い学び」による学びの深化を重視する教育課程の編成、④豊かな心と健やかな体を育む教育課程の編成、⑤家庭と連携した基本的生活習慣を確立するための教育課程の編成、⑥危機管理意識の向上(含感染症対策)を目指した取組を取り入れた教育課程の編成の６点とし、学習指導及び生徒指導の改善を図っている。

学　習　指　導	生　徒　指　導
◆わかる・できる・わかちあう授業、個に応じた指導の充実と各教科の「個人思考」「集団思考」の場を設定 ◆問題解決的・体験的活動を重視した授業展開及び協働的な学習活動、指導方法の改善による学びの深化 ◆家庭学習・自学習慣の確立 ◆授業や行事での発表・交流活動の充実 ◆動機付けや学びに向かう力を喚起させる手立て ◆書く活動の重視、読書活動の充実、学校図書館の活用 ◆基礎学力を高める指導の充実（学年内専科の活用）	◇情報共有と基本的生活習慣の徹底(学年内専科の活用) ◇集会活動等での自主性や思いやりの心を育む取組 ◇道徳科の時間を要に、全教育活動を通して行う道徳教育の充実 ◇いじめ、不登校の未然防止、早期発見・早期解決 ◇食育の推進と家庭への啓発活動 ◇教材園を含む栽培活動の充実 ◇日常的な危機管理体制及び危機管理マニュアルの内容検討を含む研修の充実

Ⅲ　実践の成果（○）と課題（●）

○　カリキュラム・マネジメントの充実を視点として、各教科の効果的な指導を学び合える場を設定して授業改善を図ったり、本校職員が講師となりＩＣＴ機器の活用に関する研修を実施したりしたことにより、全教職員の学校運営への参画意識の向上につなげることができた。

●　今後は、総合的な学習の時間等において教科等横断的な視点による教育課程の改善を一層進め、児童の主体的な学びを図るためのカリキュラム・マネジメントを充実させていく必要がある。

学力向上をめざした組織的取組

～理科専科を活用した全校での学力向上に向けたアプローチ～

秩父別町立秩父別小学校　学級数９　（校長　戸　澤　法　史）

Ⅰ　実践テーマの概要

本校では、令和３年度から理科の専科加配を受け、理科の専門性を生かしたきめ細かな指導に取り組むとともに、校務分掌に学力向上の取組を推進する「学力向上係」を設置し、専科指導と学力向上の取組を一体的に捉えた実践を行っている。

Ⅱ　実践の概要

１　各種調査結果の分析と取組の重点化

第２学年から第６学年で実施する「標準学力検査」（国語科・算数科）及び「全国学力・学習状況調査」の実施後、速やかに自校採点を行い、分析結果を踏まえて学力向上に向けた取組を重点化している。

(1)　「秩父別スタンダード」の見直しと徹底

・学習過程、学習規律、学習環境、生活指導等について全校で統一した指導を行った。

(2)　朝学習及び放課後学習の取組

・「ほっかいどうチャレンジテスト」や各種教材などを活用し、読解力の向上に向け、計画的に取り組ませた。
・学習プリントを教室の棚に保管し、児童がいつでも活用できるようにした。
・研修係と学力向上係で検討した問題集を１年かけて取り組んだ。
・朝学習や放課後学習において、各学年に配置された複数の教員が対応し、困り感のある児童への支援体制を充実させた。

(3)　「自主学習応援コーナー」の設置

・「自主学習応援コーナー」に掲示されたノートのよいところを昼の放送で紹介するなどして、児童の学習意欲を喚起した。
・「自分で選んで印刷お願いコーナー」において、自主学習で何を行えばよいか分からない児童のために、児童が問題を選んで印刷を依頼できるスペースを設置した。

【自主学習を応援するコーナー】

(4)　観察・実験、体験活動の充実

・理科の学習において、観察・実験、体験活動等の準備に時間をかけ、効果的な学習活動となるよう教材研究を行った。

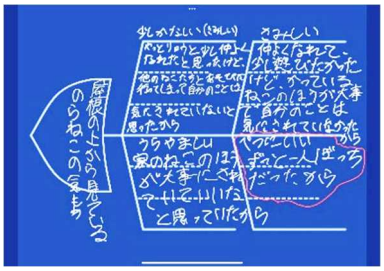
２　役割を明確化した分掌間連携

(1)　研修計画への学力向上研修への位置付け

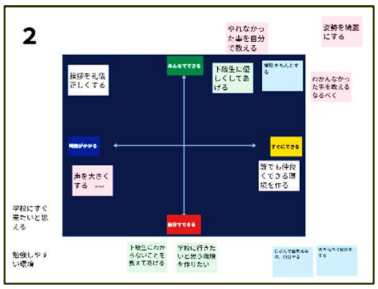
・４月：「秩父別スタンダード」の確認
・５月：各種調査結果の分析及び考察
・７月：授業改善の取組及び進捗状況等の確認
・２月：調査問題の解き直し及びトライ結果の考察

(2)　研究テーマを踏まえた授業改善

・問いをもつ：「なぜだろう？」「どうしたらできるだろう？」
　　児童が主体的に課題解決に向かう問いの工夫
・思考する：ロイロノートのシンキングツールの活用
・交流する：ＩＣＴを活用し、リアルタイムで考えたことを交流していく。
・振り返る：パターンに合わせた文章構成による振り返り
　　私は～が大切だと思った。（要点・結論）
　　なぜなら～だからだ。（理由）
　　例えば～である。（例）
　　以上のことから～であると考える。（結論）
　　私は～をしていきたい。（抱負）
・認知特性を意識：個に応じた指導の充実に向けて、児童一人一人の認知特性を把握し、視覚や言語、聴覚に働きかける。



【児童の思考を深める思考ツール】



【ＩＣＴを活用した交流の場面】

３　学び直しの機会の設定と分析・考察

２か月間に渡り、学び直しの機会を設定した。その際、Ｓ－Ｐ表を活用して、同じ問題で誤答した児童でグループを構成し、指導を行った。また、第６学年において、調査問題の解き直しの機会をもったり、第５学年において、調査問題にチャレンジしたりする機会を設定するなど、第５学年の実態を把握することや、第６学年の学びの変容を確認する機会を設定した。

Ⅲ　実践の成果と課題

○　日常の学習指導において、学校全体で指導過程や学習規律等を統一して取り組んできたことにより、全国学力・学習状況調査の国語科、算数科及び理科において、全国の平均正答率を継続して上回るとともに、算数科及び理科における記述問題では、全国の平均正答率を上回り、無回答の児童は見られなかった。

●　指定された条件を踏まえて記述することに課題が見られることから、求められた条件を正しく理解し、表現することについて、具体的な改善方策を示していく必要がある。

時代に応じた主体的な学びと適切な表現力の育成
～各種調査結果を活用したカリキュラム・マネジメントの充実～

恵庭市立恵明中学校　学級数 22　（校長　前川　豊志）

Ⅰ　実践の趣旨

本校では、令和２年度から各年度の重点教育目標を踏まえ、組織的なカリキュラム・マネジメントを可能とする「カリキュラム・マネジメント・ミーティング」を定期的に実施している。ミーティングでは、各種調査結果を基に、新学習指導要領における各教科等の目標及び内容の実現状況、ＩＣＴ活用の具体的な活用方法などについて協議を深め、「主体的な学び」と「適切な表現力」を培うための「プレゼンテーション」を中心とした教科等横断的な視点を踏まえた実践に生かしている。

Ⅱ　実践の内容

１　本校の重点教育目標におけるプレゼンテーション及びＩＣＴ活用のねらい

本校では、生徒が各教科等の授業や学校生活を通じて身に付けた知識や考え方などを、相手に論理的に伝えることができるようＩＣＴを効果的に活用し、自らの考えを仲間と協働してまとめ、表現する学習を展開している。そのため、育成を目指す資質・能力を明確にし、学校全体として組織的・系統的に指導できるよう指導計画にプレゼンテーションやＩＣＴの活用場面を位置付けている。

	主体的な学び	適切な表現
資質･能力の柱	資質･能力の具体	資質･能力の具体
知識･技能	･準備、着席、教科ごとの約束等、学習規律 ･継続的な家庭学習等の学習習慣	･望ましい人間関係を構築するコミュニケーションのスキル **･デジタルコンテンツやアプリ、タブレット等の ICT 活用能力**
思考力･判断力･表現力等	･家庭学習やテスト勉強の仕方等の学習方法の工夫 **･知識や理解、考えなどを自分の言葉で説明する力**	**･筋道の立った論理的な思考力** **･課題や目的、相手等に応じた多様な手段や方法**
学びに向かう力、人間性等	･見通しをもって粘り強く取り組む力 ･自己の学習を振り返って、次につなげる力	･豊かな感性と情報モラル ･他者への配慮等の思いやり

【令和４年度　恵明中学校重点教育目標】（※太字はプレゼンテーションによって育成を目指す資質･能力）

２　プレゼンテーションについての系統的な学習及び表現の場の工夫

(1)　【令和２年度】「モデル提示」

これまでの全国学力・学習状況調査やＮＲＴ等の結果分析を踏まえ、論理的思考力と適切な表現の方法についての具体的なモデルを学校行事等を通して全校生徒に提示した。

(2)　【令和３年度】「全校生徒への汎化」

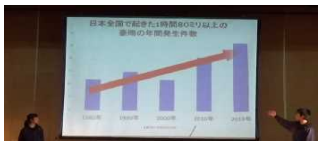
全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえ、系統的な論理的思考力の育成に向けて、総合的な学習の時間に「プレゼン演習」を位置付けた。また、１人１台端末を活用することにより、個人の興味や関心に基づいたテーマについて自分の考えを発表できるように工夫した。

(3)　【令和４年度】「教科への落とし込み」

論理的思考力と適切に表現する力を身に付けることができるよう、総合的な学習の時間等で習得したことを、各教科等の授業で活用するなど、全ての教育活動において、生徒が主体的に１人１台端末を使い、Jamboard やスライド等の機能やソフトを活用した学習活動を位置付けた。

１．聞き手が理解しやすい内容（トピックと順番）と話し方であること
２．根拠に基づいた話ができること
３．聞き手に共感・信頼・納得を生み出すことができること

【「プレゼン演習」で学習する　［論理的な思考・適切な表現］　のための重点事項】

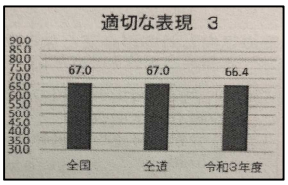


【文化祭でのプレゼンの様子】

３　各種調査結果を踏まえた資質・能力の定着状況の分析と課題の把握

各種調査結果から身に付けさせたい資質・能力の定着状況について把握し、課題や改善策について校内で共有した。

1. 望ましい人間関係を構築するコミュニケーションのスキル
2. デジタルコンテンツやアプリ、タブレット等のＩＣＴ活用能力
3. 筋道の立った論理的な思考力
4. 課題や目的、相手等に応じた多様な手段や方法
5. 豊かな感性と情報モラル
6. 他者への配慮等の思いやり



【「適切な表現」のために身に付けさせたい資質・能力及び調査結果】

Ⅲ　成果（○）と課題（●）

○　生徒アンケートにおいて、「身に付いたことを表現することができるようになってきた」と回答した生徒の割合が昨年度と比べ増加した。

●　各種調査結果を基に、生徒の資質・能力の育成に向けて、ＩＣＴを効果的に活用した学習活動を今後も工夫する必要がある。

全国学力・学習状況調査を活用したカリキュラム・マネジメントの充実

余市町立沢町小学校　学級数７　（校長　堀　　智行）

Ⅰ　実践の概要

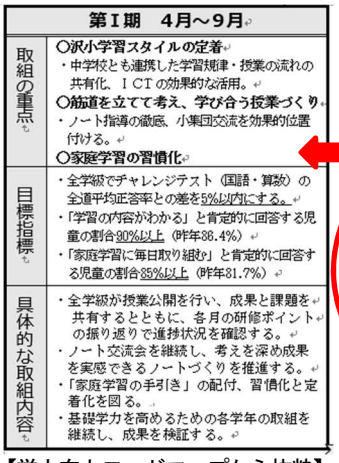
本校では、令和２年度から北海道教育委員会の「授業改善推進チーム活用事業」の指定を受け、学校全体で組織的な授業改善に取り組んできた。

今年度は、学力向上ロードマップ（後志版）を活用し、検証改善サイクルの一層の確立を図るとともに、全国学力・学習状況調査を活用したカリキュラム・マネジメントの充実を図るなどして、授業改善の取組を進めている。

Ⅱ　取組の概要

１　学力向上ロードマップ（後志版）の活用

グランドデザインで示した学力の目標を達成できるよう、学力向上ロードマップにおいて取組を重点化するとともに、目標指標を設定し、具現化を図った。４月当初に「沢小学習スタイル」を確認し、筋道を立てて考え学び合う授業づくりの方向性を全教員で共有した。また、各種学力調査の結果を活用して児童の学力の状況を把握し、授業改善を図った。さらに、家庭学習は提出率の数値目標を立て、目的や児童への指導方法を全教員で共通理解を図り、取り組んだ。



第Ⅰ期　４月～９月	
取組の重点	○沢小学習スタイルの定着 ・中学校とも連携した学習規律・授業の流れの共有化、ＩＣＴの効果的な活用。 ○筋道を立てて考え、学び合う授業づくり ・ノート指導の徹底、小集団交流を効果的位置付ける。 ○家庭学習の習慣化
目標指標	・全学級でチャレンジテスト（国語・算数）の全道平均正答率との差を5%以内にする。 ・「学習の内容がわかる」と肯定的に回答する児童の割合90%以上（昨年38.4%） ・「家庭学習に毎日取り組む」と肯定的に回答する児童の割合85%以上（昨年81.7%）
具体的な取組内容	・全学級が授業公開を行い、成果と課題を共有するとともに、各月の研修ポイントの振り返りで進捗状況を確認する。 ・ノート交流会を継続し、考えを深め成果を実感できるノートづくりを推進する。 ・「家庭学習の手引き」の配付、習慣化と定着化を図る。 ・基礎学力を高めるための各学年の取組を継続し、成果を検証する。

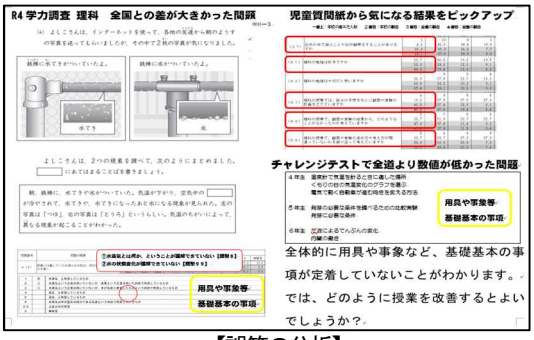
【学力向上ロードマップから抜粋】

【沢町小グランドデザイン】

２　全国学力・学習状況調査の誤答の分析結果の活用による課題の明確化

余市町では授業改善推進チームを中心に、全国学力・学習状況調査やチャレンジテストの分析を行っている。令和４年度もＳＰ表を活用し、全国との正答率の差が大きく正答数が少なった問題の誤答の傾向を中心に分析を行った。

その分析結果と、児童質問紙で数値の低かった項目やこれまでのチャレンジテストの分析結果を重ね合わせたことにより、課題をより明確にすることができた。



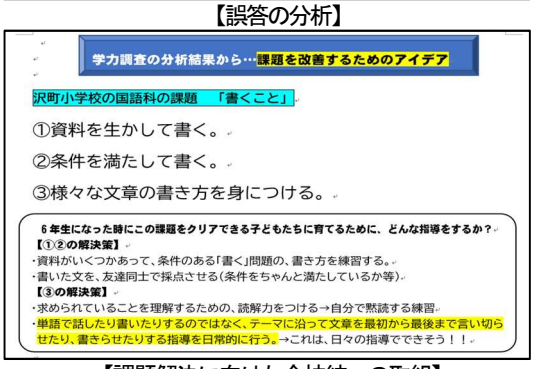
全体的に用具や事象など、基礎基本の事項が定着していないことがわかります。では、どのように授業を改善するとよいでしょうか？

【誤答の分析】

３　授業改善とカリキュラムの見直し

分析結果を生かして授業改善を図るには、個々の教員に授業改善を委ねるのではなく、学校全体で解決策を考えることが重要である。そこで、校内研修で解決策を出し合い、各学級の実態に合わせて実践に生かした。

また、実践の結果を定期的に確認し合い、成果や課題を共有しながら改善に努めた。話合いの中から、教科横断的な視点から指導が必要な内容や、課題解決を意識して指導した方がよい単元、学年の系統性を整える必要がある内容など、様々な意見が出されている。



【課題解決に向けた全校統一の取組】

Ⅲ　成果（○）と課題（●）

○　全国学力・学習状況調査等を活用することで、学力面の課題を共有し、全校で統一した授業改善に取り組むことができた。

○　チャレンジテストは、昨年度の同時期と比較すると、各教科の正答率が最大 29 ポイント上昇した。

●　今後は課題を解決するために出された意見を生かして、更にカリキュラムを見直す必要がある。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査を活用した カリキュラム・マネジメントの充実

共和町立北辰小学校　学級数８　（校長　田　中　　豊）

Ⅰ　実践の趣旨

本校では、令和２年度から「体育専科教員活用事業」の指定を受け、体育科の授業の改善と体力向上に向けた取組を進めている。

今年度は、本事業の最終年度として、体力向上プランに基づいて検証改善サイクルを確立するとともに、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を活用したカリキュラム・マネジメントの充実を図ることに力を入れた。

Ⅱ　実践の概要

１　全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の調査結果を、全国との比較はもとより、学年として経年の変化を把握できるようにし、「新体力テスト分析ツール」を活用して経年変化の視点から考察を行い、学校全体と学年ごとの課題を明確にした。

考察の結果、「走能力」と「投球能力」が課題であることが明らかとなった。この結果を踏まえ、学級担任と課題を共有し、体育科の授業に「走能力」と「投球能力」の改善につながる運動を意図的に取り入れることとした。

【共和町３校小学校】

		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび
		kg	回	cm	点
第４学年	R４　学級平均	15.30	17.10	33.66	40.55
	R２　２年生時	55.50	47.80	55.23	50.77
	R３　３年生時	52.93	47.72	51.67	49.64
	R４　現学年	52.91	48.40	52.46	51.49
第５学年	R４　学級平均	17.55	20.00	33.80	42.30
	R２　３年生時	52.09	45.42	49.97	50.37
	R３　４年生時	51.59	47.12	48.20	47.00
	R４　現学年	53.42	51.85	50.37	52.33
第６学年	R４　学級平均	21.86	19.32	40.43	48.27
	R２　４年生時	53.38	43.50	50.80	50.13
	R３　５年生時	51.45	51.53	50.22	51.12
	R４　現学年	54.60	45.61	55.55	53.57

【令和２～４年度新体力テスト結果一覧一部抜粋】

２　調査結果を活用したカリキュラム・マネジメント

全国体力・運動能力、運動習慣等調査や新体力テストの分析結果を基に、学校全体として以下の工夫改善を図った。

(1)　記録用紙の改善と複数回の実施

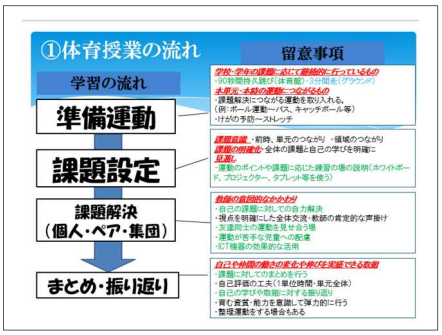
記録用紙は、これまでの児童本人の記録と当該学年の全国平均を記載し、児童が具体的な到達目標を立てることができるよう工夫を図った。

令和３年度は、全学年で２回の測定を行い、変容を考察したが、効果的な指導を行う観点から、令和４年度については、１回目の測定結果の分析を踏まえ、課題となった種目に絞って２回目を測定した。

【新体力テスト記録用紙】

(2)　日常の授業改善

課題解決型授業の１単位時間の流れについて共通理解を図り、授業の導入に動的ストレッチを取り入れた。動的ストレッチは、基本形に加えて、課題としている種目の補強運動を取り入れ、学級担任が領域や単元に合わせて、動的ストレッチの内容を工夫するようにした。



【１単位時間の流れ】

(3)　生活習慣の改善

生活リズムチェックシートの取組において、睡眠時間に加えて、運動時間や朝食摂取に関する項目を設定し、家庭と連携する取組を進めた。

Ⅲ　実践の成果（○）と課題（●）

○　令和４年度の新体力テストの結果は、男女合わせて 16 種目中 12 種目の体力合計点が上がった。全学年、全種目の体力合計点の平均は令和３年度に比べて 0.8 ポイント上昇し、全体的な体力の向上を図ることができた。

○　動的ストレッチの導入により、令和４年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の児童質問紙において、授業で自分の動きの質が向上していると感じている児童の割合が、女子は 80％と全国平均を上回った。

●　放課後に体を動かすことのできる環境がなく、運動習慣の定着に課題が見られることから、家庭と連携を図り、家庭で継続して取り組むことができる運動種目を示すなどの工夫が必要である。

カリキュラム・マネジメントの充実に向けた学校の教育目標の改訂

羅臼町立知床未来中学校　学級数７　（校長　野　呂　幸　生）

Ⅰ　本実践の概要

学習指導要領の趣旨を実現するためには、カリキュラム・マネジメントの充実を図ることが必要である。また、カリキュラム・マネジメントを効果的に推進するためには、何を目標として教育活動の質の向上を図るのかを明確にすることが重要であり、教育課程の編成の基本となる学校の経営方針や教育目標を明確にし、家庭や地域とも共有することが求められている。

このことを踏まえ、今年度、教職員、生徒、保護者と協働し、学校の教育目標の改訂に向けた取組を推進した。

Ⅱ　実践の内容

１　校内研修における教職員によるブレインストーミング

何を目標として教育活動の質の向上を図っていくのかを明確にするため、４月下旬に、校内研修として教職員によるブレインストーミングを行った。

話合いの視点を、①本校の生徒の強み、②本校の生徒の弱み・改善点、③どんな力を身に付けた生徒を育成するか、の３点とし、模造紙に付箋紙を張り、意見交換するワールドカフェ方式を用いて協議を行った。

協議の結果を基に、学校の教育目標（案）を作成し、校務運営委員会による検討を経て、職員会議で示した。

【ブレインストーミングの様子】

２　全校集会における生徒との対話

学校の教育目標（案）は、６月上旬に開かれた全校集会で管理職が生徒に提案し、教職員がどんな思いや願いを込めて作成したのかを、生徒の日常の学習活動と関連付けながらプレゼンテーションを行った。

生徒と対話をする中で、学校の教育目標（案）の実現に向けて、今後の学びを進めていくことを確認することができた。

【全校集会の様子】

３　ＰＴＡ役員会における保護者との意見交換

６月中旬、ＰＴＡ役員会を開催し、学校の教育目標の改訂に向けた教職員と生徒の対話等の取組ついて紹介するとともに、学校の教育目標（案）を提案した。

提案する際には、「なぜ目標を明確にすることが大切なのか」、「なぜその目標を生徒、保護者、教職員で共有することが重要なのか」について説明した。

ＰＴＡ役員から、本案について賛同をいただき、６月15 日に学校の教育目標が改訂された。

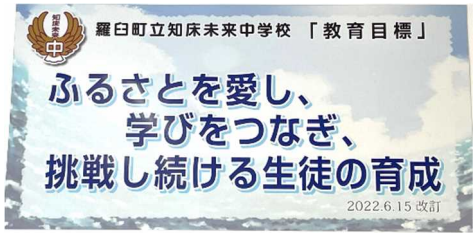
【ＰＴＡ役員会の様子】

Ⅲ　実践の成果（○）と課題（●）

○　学校の教育目標の改訂作業を通して、教職員は、自校の強みや弱みを再確認することができ、学校全体で目指す方向性が明確になった。

○　学校の教育目標を設定したことにより、日々の教育活動の計画をゴールを目指した逆向きに設計できるようになり、カリキュラム・マネジメントの充実を図ることができた。

●　より一層、取組を充実させるために、全ての教育活動において、学校の教育目標を意識して取り組むとともに、授業を中核に据え、教育課程を改善・充実させていくよう、意図的・計画的・継続的に取組を推進する必要がある。



【改訂した学校の教育目標】